

平成27年度・事業実施評価表(教育領域);生活心理学科 2016.4.28

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				①	AO入試で適切な学力表を行い、入学者を確保する。	AOによる入学者が不足している	8.3	AOを高校訪問で丁寧に説明する	10%	21%	AOを高校訪問で丁寧に説明する	さらにAOを高校訪問で丁寧に説明する	AOの入学者率(5/24)
			(2)教養教育の充実化	2	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	スタンダード科目での展開	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する	現状を維持する	
				3	健康や文化への価値観を高める。	スタンダード科目の充実が必要	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				4	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	平井ラーニングなどを実施している	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				5	学園への帰属意識を高める。	定時放送で学園歌を浸透させている	4	学園祭などの参加を誘う	5	5	学園祭などの参加を誘う	学園祭などの参加を誘う	
				6	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				7	シラバスを充実する。	履修者情報が不足している	3	履修者の成績分布表記など工夫する	4	4	履修者の成績分布表記など工夫する	履修者の成績分布表記など工夫する	
			(3)学士力の向上のため、各学部・学科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	専門科目を充実する。	不足している領域がある	3	科目担当者間で検討する	4	4	科目担当者間で検討する	科目担当者間で検討する	
				9	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				10	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する	
				11	体験交流重視教育を強化する。	不足している	3回	回数を増やす	4回/年	2回	回数を増やす	回数を増やす	交流教育回数/年間
				12	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	浸透していない	1回	学科全体で取り組む	2回/年	1回	学科全体で取り組む	学科全体で取り組む	社会活動等の回数/年間
				②	資格特待生制度・英語堪能入学者増計画を導入する。	告知・宣伝が不十分	0%	大学案内を活用し宣伝に努める	0%	0	0月1日より新制度による募集を開始する	積極的に高校へ募集を行う	特待生等の入学者に占める割合
			(4)学習支援の強化。	③	家庭科教育教職課程教育を実施し、履修者を増やす。	初年度で指導が不十分	3名	家庭科教職の魅力伝える	5名	6	家庭科教職の魅力伝える	今後も続けていく	家庭科教職履修者数
		④		生活科学・心理学の2コース制を実施する。	2年度目で浸透し始めた	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する		
		13		センターの充実と利用者の利便性をさらに向上させる。	学生への浸透が不十分	3	組織として実態不明。改善が必要。	4	3	組織として実態不明。改善が必要。	組織として実態不明。改善が必要。		
		14		学習支援センター、アドバイザー制度などを活用する。	学生への浸透が不十分	3	組織として実態不明。改善が必要。	4	3	組織として実態不明。改善が必要。	組織として実態不明。改善が必要。		
		15		初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的なシステム構築に至っていない	2	科目間の連携を深める	4	2	科目間の連携を深める	アクティブラーニングの実施		
		17		コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座への参加動機が不足	3	講座への参加を促す	4	3	講座への参加を促す	講座への参加を促す		
		(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	18	社会人基礎力の強化を図る。	教科以外の機会が不足	3	学外の講座などの情報を伝える	4	3	学外の講座などの情報を伝える	学外の講座などの情報を伝える		
			⑤	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る	全学生に浸透しきっていない	87回	さらに学生に説明し理解を深める	100回	—	さらに学生に説明し理解を深める	さらに学生に説明し理解を深める	システム利用者延べ数	
			⑥	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	5名	現状を維持する	5名	5	現状を維持する	正課への移行を目指して改編する	プログラム参加者数	
		(6)学生支援の強化	⑦	ビジネス検定等の正課外プログラムの充実を図る。	学生への浸透が不十分	42	さらに学生に説明し理解を深める	50名	—	さらに学生に説明し理解を深める	さらに学生に説明し理解を深める	プログラム参加者数(言語文化との計)	
			22	留学推進、外国人留学生支援方策を検討する。	留学を推進する	4	留学についての情報を提供する	5	—	留学についての情報を提供する	留学についての情報を提供する		
			23	中退・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標値は達成している	4.70%	授業内容の魅力高める	1.00%	—	授業内容の魅力高める	授業内容の魅力高める		
			24	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する		
			25	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	具体的な検討が不足していた	5	現状を維持する	5	5	現状を維持する	現状を維持する		
			26	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	0回	全教員が年2回は更新する	2回/年	—	全教員が年2回は更新する	全教員が年2回は更新する	教員紹介等の項の更新回数	
		(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	27	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する	HP更新回数が少ない	2回	ホットニュースなどを随時更新をする	4回/月	1	ホットニュースなどを随時更新をする	ホットニュースなどを随時更新をする	HPのホットニュースの更新回数	
			28	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	2	入試広報部との連携を深める	入試広報部との連携を深める		
			29	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	不十分な部分がある	2	入試広報部との連携を深める	4	3	入試広報部との連携を深める	入試広報部との連携を深める		
			30	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果をあげている	5	現状をさらに強化する	5	5	現状をさらに強化する	現状をさらに強化する		
			31	必要な入試制度の見直しを行う。	関連情報に基づく見直しが必要	4	推薦入試の小論文などの再検討	4	4	推薦入試の小論文などの再検討	推薦入試の小論文などの再検討		
			32	正確な入学者予測の基に適正な入学者確保を行う。	受験者が十分に確保されていない	63%	受験者を増やし定員充足率10割とする	100%	40%	受験者を増やし定員充足率10割とする	受験者を増やし定員充足率10割とする	定員充足率	
			33	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	積極的な募集広報不足	1名	教員の地域活動等でPRを行う	3名	3名	教員の地域活動等でPRを行う	教員の地域活動等でPRを行う	社会人入学者率	
			⑧	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	連携が不足していた	3	入試広報部との連携を深める	4	4	入試広報部との連携を深める	一層入試広報部との連携を深める		
(8)キャリアサポートと就職支援	34	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標値は達成している	100%	現状を維持する	100%	100%	現状を維持する	現状を維持する	就職率			
	35	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	4	さらに内容を充実させる	さらに内容を充実させる				
	36	各種のキャリアサポート・就職支援を実施する。	開催されているが内容が不十分だった	3	さらに内容を充実させる	4	4	さらに内容を充実させる	さらに内容を充実させる				
	37	キャリアセンターの適正な人員配置・体制整備を行う。	適正に配置・整備がなされていない	3	さらに適正に配置・整備を行う	4	4	さらに適正に配置・整備を行う	さらに適正に配置・整備を行う				

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もあろうし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

平成27年度・事業実施評価表(教育領域);言語文化学科

作成日; 2016年 3月 22日

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考		
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価				
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	1	面接等による適正評価を行う。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	-	後期実施予定	5	現状を維持した。	現状を維持する。			
				2	AO入試で適切な学力評価を行い、入学者を確保する。	面接による総合判断で評価している	4	項目別数値評価を試みる	5	4	項目別数値評価方法を定めた。	5	項目別数値評価方法を定め、実施した。	数値評価を継続する。			
			(2)教養教育の充実化	3	学園の建学の理念と歴史を学ぶ。	山陽スタンダード科目で行われている	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している。	4	現状を維持した。	現状を維持する。			
				4	健康や文化への価値観を高める。	「人間学」で具体的に講義されている	5	現状を維持する	5	-	後期実施予定	5	「人間学」で具体的に講義された。	現状を維持する。			
				5	社会活動・地域貢献への価値観を高める。	学科の必修科目などで行っている	4	価値観の共有と深化を目指す	5	-	方法を模索中	4	学科の必修科目で実施し、理解を深めた。	1～3年の必修科目などで活動を継続する。			
				6	学園への帰属意識を高める。	学園歌放送、大学祭参加を行っている	4	大学祭の参加を継続する	4	-	参加予定で準備中	4	学科として展示と模擬店に参加した。	大学祭の参加を継続する。			
				7	山陽スタンダード・教養教育の充実化を図る。	山陽スタンダード科目や基礎演習の充実に努めている。	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している	4	現状を維持した。	現状を維持する。			
			(3)学士力の向上のため、学部・学科・研究科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	8	シラバスを充実する。	準備学習などを明記している	4	第三者による記述内容の確認を行う。	4	-	後期実施予定。	4	教務部で記述内容の確認が行われた。	準備学習や推薦図書の記事を充実させる。			
				9	専門科目を充実する。	科目間の連携が十分でない	3	専門性を高める履修のしきみを作る	4	4	検討中	4	コース制設置を検討した。	コース制の実現に向けて制度を作る。			
				10	成績評価を厳格にする。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している。	5	現状を維持した。	現状を維持する。			
				11	課題探求型・問題解決型学習を積極的に導入する。	ゼミ等で行われている	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している。	4	現状を維持した。	現状を維持する。			
				12	体験交流重視教育を強化する。	学科の必修科目などで行っている	2回/年	1年次の体験交流を増やす	3回/年	2回/年	「基礎演習1」で平日ラーニングとコミュニケーション活動を行った。	3回/年	「基礎演習」で年3回+発表1回を行った。	1～3年の必修科目で年3回以上体験活動を実施する。			
				13	社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する。	学科の必修科目などで行っている	2回/年	価値観の共有と深化を目指す	2回/年	-	方法を模索中	2回/年	1～2年で年2回地域貢献活動を実施した。	1～3年の必修科目で年2回は地域貢献活動を実施する。			
				14	専門性を高め、広く学ぶ	系統的学習が確保されていない	3	主副専攻制を検討する	4	4	検討中	4	コース制設置を検討した。	コース制を実現する。			
				15	国語力を高め、異文化理解力、コミュニケーション力を高める	学科必修科目間の連携が不十分である	3	科目間の連携を試みる	4	-	方法を模索中	3	「コミュニケーション概論」と「基礎演習」で連携授業を行った。	コア科目を中心に、学科の共通基盤の充実を図る。			
				16	留学や実習などの海外経験を促進する	留学・実習系科目で行っている	4	さらに促進する	4	4	促進している。	4	担当部署と学科で海外経験を促進した。	留学・実習系科目の履修を促進する。			
				17	英語特待生、英語特別集中講座を継続して実施する	第2期目が実施されている	各2名	講座の周知と受講者増を目指す	各3名	各2名	講座担当者が設計・実施・周知に尽力。前期申込は11名。	各2名	3期目終了。、前期の申込者数増加。周知も昨年より進んだと思われる。	講座の周知と受講者増を目指す。			
		(4)学習支援の強化	18	アドバイザー制度などを活用する。	履修や学生生活指導に有効に活用されている。	4	学習問題の早期発見・相談に努める	4	4	本人や保護者との面談を実施した。	4	本人、保護者などと連絡をとり指導した。	学習問題の早期発見・相談に努める				
			19	初年次教育、GWなど総合的な支援システムを構築する。	総合的支援システムは構築されていない。	2	基礎演習とコミュニケーション概論との連携を試みる	3	3	コミュニケーション概論と基礎演習の連携を試みた	3	「コミュニケーション概論」と「基礎演習」で連携授業を行った。	初年次教育の充実を図る。				
		(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	20	コミュニケーション能力やマナーの向上を図る。	就活へ向けた講座参加が不足している	2	ホテルエアラインも含め課外講座への参加を促す	3	-	10月の就職講座参加を促した	2	科目やアドバイザーからも受講を促したが、まだ参加は十分でない。	引き続き、講座参加を促す。				
			21	社会人基礎力の強化を図る。	就職支援科目が十分に生かされていない	3	就職支援科目の受講を促す	3	-	後期「社会人入門」の受講を促す	3	受講を促した。留学+教職の学生は履修が困難になる。	就職支援科目の受講を促す				
			22	就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る。	学生への浸透が不十分である	2	活用促進方法を検討する	3	-	検討中	2	活用方法を検討したが、使用は難しい。	資格取得等の指導に取り組む。				
			23	ホテルエアライン等課外プログラムの充実を図る。	徐々に浸透し受講者が増えている	4名	さらに講座の周知と受講者増を目指す	5名	5名	講座担当者が周知・募集・進捗・実施に尽力。前期受講は各学年平均5名。	5名	講座の完成年度を迎え、6名中5名が完遂。	さらに講座の周知と受講者増を目指す。				
		(6)学生支援の強化	24	ビジネス能力開発等の正課内プログラムの充実を図る。	検定の受験が義務づけられていない	3	検定の受験を義務づける	4	4	受講者には検定の受験を義務づけた	4	受講者には検定の受験を義務づけた。	受講と検定合格者を増やす。				
			25	留学推進、外国人留学生支援策を検討する。	留学生の支援の在り方に見直しが必要である	2	基礎演習などで留学生の支援を強化する	3	-	支援強化中	3	指導は強化したが、1年次留学生の中で指導困難なケースが目立った。	指導を継続する。				
			26	中退者・除籍者の年次目標値を3.5%以下に設定する。	目標を下回っている	5.00%	目標に向けて努力する	3.50%	-	前年度末2名、今年度前期2名退学	2.8%	3月18日現在では2.8%だが、年度末までに除籍が増える可能性が高い。	目標に向けて努力する。				
		学生募集と入試広報戦略	(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	27	学生組織・部活動等の活性化を支援・指導する。	十分に行われている	5	現状を維持する	5	5	現状を維持している	5	現状を維持している。	現状を維持する。			
				28	各学科ごとのアクションプランを確実に実施する。	定員充足を目指して対策を検討している	2	対策を具体化する	4	3	HP, OCの見直しを行う	3	OCのやり方を変え、HPの更新のしきみを作った。	コース制の広報に努める。			
				29	ホームページを改定する。	教員紹介欄が更新されていない	0回/年	全教員が年1回は更新する	1回/年	-	85%記入済。更新はほぼ終了。	1回/年	全教員が記入と更新を終えた。	教員紹介欄を年1回更新する			
				30	学科として、大学の知名度向上を図る手だてを工夫する。	HP更新回数が少ない	7回/年	HPの更新計画を立てて実施する	10回/年	-	入力分担を決めて実施中。	9回/年	入力分担を決めて更新し、目標に近い回数に達した。	HP更新計画を実現する。			
				31	柔軟で迅速なTPOを踏まえた入試戦略の強化を図る。	学科のイメージ作りが十分でない	2	目指す学科像を明確にする	3	-	検討中	3	目指す学科像を具体的に検討した。	学科のイメージ作りに努める。			
				32	OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する。	OCの内容に改善の余地がある	3	OCの形式を変更する。	4	4	毎回試行を重ねている	4	OCの形式を変更した。	コース制に向けてOCを再検討する。			
				33	学生参加型のOCを実施する。	学生が参加し効果がある	4	引き続き学生の参加を促す	4	4	学生の参加協力を得て効果を上げていた	4	学生の参加協力が効果的だった。	引き続き学生の参加を計画する。			
				34	必要な入試制度の見直しを行う。	入試内容の一部見直しを行った	4	現状を維持する	4	4	現状を維持している	4	現状を維持した。	現状を維持する。			
				35	社会人・シニア世代の入学への積極的PRを実施する。	教員の地域活動等で広報している	2%	さらに広報を行う	5%	-	できていない	2%	特別編入で社会人1名の受験があった。	さらに広報を行う。			
				36	総入学部と入試広報が連携し入試戦略を実施する。	入試広報部と連携して行っている	4	入試広報部との連携をさらに深める	4	4	連携に努めている	4	連携に努めた。	入試広報部との連携をさらに深める。			
				キャリアサポートと就職支援	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し・強化	37	各学科とも就職率(95-100%)の維持・アップを図る。	目標は達成している	95%	100%を目指す	100%	-	努力中	90%	3月時点ではまだ目標に達していない。	100%を目指す。	
						38	保護者懇談会・就職懇談会・企業研究会等を開催する。	キャリアセンターと連携して行っている	4	さらに連携を深める	4	-	保護者懇談会は教務部、学生部、キャリアセンターなどとの協力で実施した。	4	保護者懇談会、就職懇談会を各部署と連携して実施した。	さらに連携を深める。	
		39	各種のキャリアサポート・就職支援を実行する。			資格を活かした就職支援が十分でない	2	資格を活かした就職の在り方を探る	3	3	探っている	3	資格を活かした就職を求める学生に対し、資格担当者が情報提供や支援に尽力した。	資格就職の実情への理解を深める。			

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

1 重点事項

- 1 学士力向上:専攻制の設置を検討 ((3)-9専門科目を充実する (3)-14専門性を高め、広く学ぶ)
- 2 学生募集:ホームページの更新((7)-29ホームページを改定する (7)-30学科として大学の知名度向上を図る手だてを工夫する)
- 3 学生募集:オープンキャンパスの充実 ((7)-32 OC参加者、受験者、入学者、資料請求状況を分析する)
- 4 就職支援:キャリアポイントシステムの学科独自の活用 ((5)-22就職ポートフォリオ等キャリア支援システムの活用を図る)

2 重点事業

- 定員充足を達成する;門田屋敷キャンパスの活用、山陽女子高校との高大接続の推進、山陽スピリッツの浸透
定員充足を達成する;カリキュラムの充実を図ることで、より魅力的な学科を構成

平成27年度・事業実施評価表(教育領域);看護学科

平成28年3月28日修正

区分	目的	項目	達成目標	No	行動目標	前年度の評価と評価値		今年度の課題と目標値		中間期の達成値と評価		期末の達成値と評価		来年度の課題	備考
						前年度の評価	評価値	今年度の課題	目標値	達成値	達成値に対する評価	達成値	達成値に対する評価		
教育	「愛と奉仕」の精神を基盤とし、多様性を尊重し、グローバル化を踏まえた教育を行い、健康で文化的な生活や、共生・グローバル化社会の実現に貢献できる人材の育成。	教育目標と方策	(1)アドミッションポリシーの充実化	面接時による適正評価を行う	充分行われた	5	現状を維持する	5	4	現状を維持する	4	現状を維持する	適切に実施する		
				特別推薦の定員の削減	20%	5	特別推薦の定員の削減	18%	実施中	1	検討を要す	再検討を要す(30%)			
			(2)教養教育の充実化	学園の建学の理念と歴史を学ぶ	従来通り実施した	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する	5	現状を維持する	実施する		
				山陽スタンダード等教養教育の強化を図る		5	現状を維持する	5	4	現状を維持する	5	現状を維持する	実施する		
				健康や文化への価値観を深める	人間学で一体化した講義を受けさせた	3	現状を維持する	3	4	現状を維持する	4	現状を維持する	実施する		
				社会活動・地域貢献への価値観を深める	従来どおりできた	4	現状を維持する	4	4	現状を維持する	4	現状を維持する	実施する		
				学園への帰属意識を高める	定時放送で学園歌を放送する	4	現状を維持する	4	5	実施できた	5	実施できた	実施する		
			(3)学士力の向上のため、学部・学科・研究科のディプロマポリシーのさらなる実質化。	シラバスの内容を充実する	シラバス内容を再検討した	5	現状を維持する	5	5	実施できた	5	実施できた	再検討する		
				専門科目を充実する	充分行われている	4	現状を維持する	4	4	実施できた	5	実施できた	現状維持する		
				成績評価を厳格にする	充分できた	4	現状を維持する	4	4	実施できた	5	実施できた	現状維持する		
		課題探求型、問題解決型学習を積極的に導入する		できた	4	現状を維持する	4	4	目標に向かって実施	4	目標に向かって実施	再検討する			
		実習における体験教育を強化する		充分できた	5	現状を維持する	5	4	目標に向かって実施	5	目標に向かって実施	継続実施			
		社会奉仕、社会活動などで地域に貢献する		不十分である	3	現状を維持する	3	4	目標に向かって実施	4	目標に向かって実施	積極的に取り組む			
		助産学専攻科を開設する				平成28年4月開設予定	5	5	予定どおり進行中	5	開設準備完了	課題の探究			
		センターの充実と利用者の利便性を向上させる		不十分である	2	現状を維持する	2	2	困難性あり	3		検討する			
		(4)学習支援の強化。	アドバイザー制度の活用	従来どおり充分に行われている	4	現状を維持する	4	4	実施できている	4	実施できている	継続実施			
			初年次教育GWなど総合的な支援システムの構築	従来どおり行った	3	現状を維持する	3	3	少しずつ進行中	4	実施できた	継続実施			
			教務、学生、キャリアなどのプロダクトで支援をすすめる	従来どおり行った	3	現状を維持する	3	3	現状を維持する	3	現状を維持する	現状維持する			
			入学前学習の充実:検討を図る	充分とは言えない	3	さらなる検討を行う	4	4	実施し、成果があった	4	成果あり	成果あり維持			
			国家試験対策等の充実	取り組んだが充分とは言えない	4		5	4	実施中	4	多角的支援を行った	1年生からの積み上げ			
			入学直後の業者テストの見直しで化学を導入する	業者テストを見直した	4		4	4	実施できた	4	実施できた	成果あり維持			
			生物学を強化する			試験後補講を行う	3	5	取り組んでいる	5	実施できた	積極的に取り組む			
			コミュニケーション能力やマナーの向上を図る	知的生き方概論を学習した	3	現状を維持する	3	3	取り組んでいる	3	取り組んだ	積極的に取り組む			
		(5)キャリアサポートの充実により学生の就活力、就業力を向上。	社会人基礎力の強化を図る	学内及び実習施設棟で学んだ	3	現状を維持する	3	3	取り組んでいる	4	取り組んだ	積極的に取り組む			
			キャリア教育の充実	かなりできた	4	現状を維持する	4	4	取り組んでいる	4	取り組んだ	積極的に取り組む			
			中退者、除籍者の平均目標値を3.5%以下にする	改善できた	2.80%	現状を維持する	2.80%	4	取り組んでいる	4	取り組んだ	積極的に取り組む			
		(6)学生支援の強化	学生組織、部活動等の活性化を支援する	かなりできた	5	現状を維持する	5	5	取り組んでいる	4	取り組んだ	積極的に取り組む			
			(7)学生募集の見直しと入試広報戦略の強化	看護学科のアクションプランを実施する	積極的に情報収集した助産学専攻科	3	現状を維持する	3	3	取り組んでいる	5	取り組んだ	積極的に取り組む		
		HPを改訂する(全教員年2回)		不十分である	3	現状を維持する	3	3	取り組んでいる	4	取り組んだ	継続実施			
		学科として大学の知名度向上を図る手立てを工夫する		メディアを通じた広報をした	4	現状を維持する	4	4	取り組んでいる	4	取り組んだ	取り組む			
学生参加型のOAを実施しする	学生参加し効果をあげた	5		さらに強化する	5	4	取り組んでいる	4	取り組んだ	取り組む					
必要な入試制度の見直しを行う	検討した	4		さらに検討する	4	4	取り組んでいる	4	取り組んだ	取り組む					
社会人の入学への積極的PRを行う	ある程度実施できた	3		さらにPRを行う	3	3	取り組んでいる	4	取り組んだ	取り組む					
キャリアサポートと就職支援の見直し強化	(8)キャリアサポートと就職支援の見直し強化	保護者懇談会、病院説明会を開催する	従来どおりできた	4	さらに内容を充実する	4	3	更に検討する	4	取り組んだ	積極的に取り組む				

*年度別目標値については、学部学科の現状を分析し独自に設定する。例えば、すでに4あるいは5に達していると判断される場合もありうるし、逆に1や2あるいは3と評価される場合もある。また、具体的な数値で目標の設定ができる場合には、それを表示する。(参考 5;とても良い、4;良い、3;ふつう、2;やや不足、1;不足)

①重点施策

- ・国家試験合格率100%を目指す。
- ・生物学を充実させる。
- ・進級チェック機能を導入する。

②理事長・学長とのヒアリング内容

- ・助産学専攻科開設準備をする。
- ・アドミッションポリシーの一層の実用化を図る。
- ・学士力向上のためのディプロマポリシーに関する方針のさらなる実質化を図る。
- ・学修支援を強化する。